



25年目の春に

当会発足より今年は25年目を迎えます。あっという間の歳月でした。今日まで会をご支援下さいました会員の皆様・地域の皆様には深く感謝と御礼を申し上げます。この25年間で振り返ってみたいと思います。

前身の『今市の水を考える会』から新たに『今市の水を守る市民の会』と名称を改め発足したのが2000年春のことでした。数十年前に国が計画した大谷川取水問題が浮上してきたことを懸念し、旧今市市役所OBの方々が「今市の水を考える会」として1994年に作られた会は、福田健彦氏がその代表に就かれてました。

「大谷川取水」とは、人口増の首都圏に水を供給するため鹿沼市南摩地区にダムを造り、そこに大谷川の水を地下トンネルで送るというものです。国の機関である「水資源開発公団」が大谷川取水計画を今度こそ実行したいと市や市民に対して様々な働きかけを1996年ころから活発にし始めたので、このまま何もしないでいては水を失うばかりだという心配が広がっていきました。当時「大谷川取水反対期成同盟」が反対の声を挙げていました。しかし広く一般市民に関心を持ってもらおうと生まれたのが「今市の水を守る市民の会」で、福田氏が引き続き代表に就かれました。『今市の水を守る市民の会』はこの反対運動に向けて二つの柱を立て



ました。専門部と普及部です。専門部は、取水によって大谷川扇状地の水量が減少して水田耕作にも影響が出る懸念や今市地震震源地近くに地下トンネルを通すという大規模工事への問題点を探り出し市民に伝えること。普及部は、大谷川や市内の川とその巡りの環境を知ってもらうために子供や大人向けの活動を展開するというものでした。

会ではその春から取水反対のための署名運動を展開していきました。そして夏。取水に反対の福田昭夫市長がその職を辞して県知事選挙に挑み、見事当選。秋には県知事となられたので大谷川取水は正式に中止となりました。当会の活動も一区切りつけることができました。

以後、会では鹿沼市を中心とする南摩ダム反対運動に協力していきましたが、2009年に福田代表が逝去されたのを機に組織と内容を少し変え、活動は継続していくことにしました。それは年二回、旧今市市内を対象にした「川むしたんけん」と「ゆったりウォーク」です。毎年実施、会報にも掲載していますのでご覧いただ

いていると思います。

水を生み出し、川下の暮らしを支えているのが大谷川水系・鬼怒川水系を持つ日光・今市です。殊に江戸時代以来、農産物・林産物を生み出してきた今市にはさまざまな言い伝えや古跡が残っています。観光地の日光とは別の視点でこれからも活動が続けていきたいと思っています。今後ともどうぞご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

(代表 塚崎 庸子)

目次:

25年目の春に	1
ゆったりウォーク 川室・籠岩	2
ポッカラ博物誌 姿を消してしまった 生き物たち ① 蛾	3
川むしたんけん 行川(明神地区)	4
活動報告	4

定例会のお知らせ

毎月・第4金曜日

午後1時～2時

参加希望の方は会場・日時をお問い合わせください。

◆ ご協力お願い

毎月11日はイオンの「イエローシートキャンペーン」日です。半年に一度、レシート合計金額の1%が登録団体にカードで寄贈されます。当会も登録しています。毎月11日のお買い物時には、「今市の水を守る市民の会」のボックスにレシートを入れてくださるようご協力お願いします。(印刷用紙、プリンタインクなど)当会の活動に必要な品物を購入させていただきます。



2000年4月 設立準備会



2024.11.24 川室編 ゆったりウォーク

国道121号線で倉ヶ崎から鬼怒川方面に向かうと途中右側に市立豊岡中学校があり、古大谷川も用水路の形をして流れています。そのまま北に進むと「轟工業団地入口」の看板があり、そこを右に入った地域が川室です。ゆったりウォークにこの地を選んだのは、日光市の「湧水ボランティア」で一緒している星 和行さんから景勝地「籠岩」をご紹介いただいたことにあります。

川室にある「籠岩」は古大谷川と鬼怒川が合流した先に位置し、左岸の道路—宇都宮船生高德線からの眺めは知られていますが、右岸から向かう道は田や畑、林の中を進むため現在では地元の人しかその場所にたどり着けません。今回のために林道の草刈りなど事前に星さんが整えて下さった道を参加者10名で約5kmを歩いてきました。詳しい内容は当日配布したパンフレットに記しましたので、ご希望の方はお知らせ下さい。また、2024年12月10日発行の日光市歴史民俗資料館作成の資料にも川室のことが記載されていますのでこちらもどうぞ。



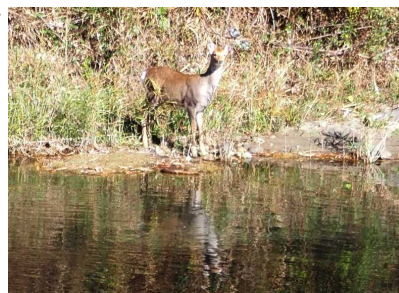
▼ 川室

「鬼怒川に板穴川と古大谷川が合流する広い扇状地の南部、古大谷川の右岸に広がる地域。全体に平坦だが、西南がやや高く、東北に向かうに従い低くなる。かつて大谷川が幾度か流れを変えた流域にあったらしい……」と『いまいち市史通史編』は伝えています。古くから人々の暮らしてきた地は水の確保にさまざまな工夫が進められ、江戸時代末期には二宮尊徳による報徳仕法が施されてきた地でもあるそうです。星さんのお話によると、現在日光市東郵便局の職員駐車場周辺の場所は、戦前に被服廠(旧陸軍の軍服製造工場)があった所で、戦後は水田耕作地となり水路がめぐらされていたそうです。近くに建つ川室高雄神社に参拝。参加者が見つけた珍しい形の注連縄には全員で見入ってしまいました。

▼ 籠岩

享保8(1723)年の五十里洪水で大きく景観が変わったと伝えられていますが、日光御門主や日光社参の大名達・文人墨客が屋形船を仕立てて舟遊びをした場所だったそうです。日光連山を仰ぎながらの遊覧はさぞ雄大だったでしょう。元禄2(1689)年に日光から那須に向かう松尾芭蕉が川室を通ったようです。しかし、芭蕉も門人の曾良も籠岩の事は記していないと『いまいち市史通史編別編Ⅱ』は伝えています。ウォーク当日、水面で羽を休めている

(次ページ左下欄へ)



ポッカラ博物誌

－ 姿を消してしまった生き物たち －

① 蛾（アオシャク亜科・オオミズアオなど）

ポッカラとは筆者が住む日光市板橋の林地のこと。昔、旅したネパールのポカラと「カラッポ」をかけ合わせた造語である。

「博物誌」などと言うと、ナチュラリストからはおよそ縁遠い筆者を知る方たちからは「柄にもなく」などと、ひんしゅくを買いそうだが、縁あってこの地に住んで35年。そのかん折々に出会ったが、今は姿を消してしまった生き物たちのことを、かかわってきた自然保護運動の事などとともに、いくつか思い出すままに記してみたい。

毎年、宇都宮のデパートで催されている「新春古書の市」なるものの出品目録を開催期間も過ぎた最近になって見つけ出し、何気なくページを繰っていると「今市産蛾類図鑑」という、懐かしい本が出品されていたことに気づいた。この本を思い出しているうちに、夜のとばりとともに筆者が当時やっていた学習塾や自宅の窓辺に集まっていたたくさんの蛾の仲間たちのことを思い出した。

1990年の春、ポッカラへ引っ越して後の事であったが、新聞の地方版に六方沢で蛾の灯火採集調査が行われている様子が写真入りで紹介されていて、よりによって蛾の調査などとは、すごい情熱だなと感心していた。多分その



白鳥の群れや水際でゆったり草を食む若い鹿を岸から眺められたのは素晴らしい体験でした。現在、対岸では10階建て二棟の会員制ホテルが建設中です。

▼ タカオ神社

水の神の一つである竈（オカミ）—高竈（タカオカミ）と閼竈（クラオカミ）、今回歩いた地区には二つのタカオ神社があります。川室高雄神社と轟高男神社です。旧今市市周辺には21ものタカオ神社があり、高雄・高男・高尾とそれぞれ字が異なりますが、本来は『高竈神社』。読み方を略してタカオとなったのだと思います。

奈良県の丹生川上神社上社が神様—龍神様—誕生の地で、山の峰に高竈・谷の底には閼竈がおられるそうです。祈りの為に人々が口々に龍を呼ぶということから、雨の下に口の字を三つ入れた龍とすると字も覚え易いそうです。大室のタカオ神社は石鳥居にこの字が刻まれています。

▼ 大谷川扇状地(今市扇状地)に暮らす

日光連山の水を蓄えている扇状地の上に私達の暮らしがあります。先人達の知恵をたどるウォークはこれからも続けますので、地域の情報をぜひお寄せ下さい。今回、川室の星様には大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。（塚崎庸子）



オオミズアオ

写真：市歴史民俗資料館発行パンフレット
(1992年7月18日 発行)

「ガ・チョウの仲間のきらわれもの」より転載

結果がまとまったの事であったと思うが、「今市の蛾」の調査内容を紹介する展覧会が開催されて、それを見に行った記憶がある。

お恥ずかしい話だが、それまで蛾の類は苦手だった。夜、寝室の障子にパサパサと羽音がすると、鱗粉などが落ちていないかなどと考えて、おちおち眠れなくなるありさまだった。それがこの催しに行って、いっぺんに変わってしまった。強がりではなく蝶類などとは、また違う蛾の独特の美しさ、奥の深さに目を奪われたのである。

それから蛾をよく観察できるようになった。その頃は、前日にタ立のあった夏の朝などには、ガラス窓に張り付くように、たくさんの蛾がとまっていたものである。とりわけ印象に残っているのは、薄緑色の蛾であった。写真でも撮っておけばよかったのだが、そんなことも思いつかず、ただきれいだと眺めていただけだったのが惜しまれる。今になって図書館で借りてきた、その図鑑で調べてみても、どうやらそれはアオシャク亜科のいずれかであるくらいの見当しかつかなかった。

そんなことを当会の塚崎代表に話してみると、「私のところにはオオミズアオなどもよく来てましたよ。ヤママユもよく見かけたと思います。」と、さらっと教えてくれた。さすが、である。改めて最近の夏の記憶をたどってみても、今や蛾の姿を見ること自体が稀になりつつあるように思われるのだが、どうなのだろうか？

それにしても一地方都市の市民が調査の主力になって、これだけの図鑑を作ってしまうとはと、その情熱に圧倒される思いを抱いた。掲載された蛾は1700種余、これは日本で見られる蛾類約4900種の3分の1にあたるという。図鑑の巻頭に祝辞を寄せられた日本蛾学会や（財）日本昆虫学会の幹部の方たちも、この企画が一自治体の行事としては「多分例のない、破格な、学術的にも貴重」として「今市のボランティアの方々の狂気とも言うべき執拗な努力」がたたえられている。

改めて振り返ってみると、ここで「狂気」という尋常ならざる言葉で表現された市民たちの調査へのエネルギーは、多分、筆者が宇都宮の在野の地質学研究者、猪瀬建造さんに誘われて初めて当会の前身、「今市の水を考える会」の集まりに参加させていただいた日、そこで感じた会員の方たちの運動への情熱、エネルギー、団結力と通底するものがあったように思う。（文責・森）

活動報告

9月27日(金) 定例会
10月12日(土) 日光ボラ・市民活動フェスタ2024 参加
10月25日(金) 定例会
10月26日(土) 川むしたんけん(日光市行川)
11月22日(金) 定例会
11月24日(日) ゆったりウォーク(日光市川室)
1月24日(金) 定例会
2月28日(金) 定例会

だいや川通信
第58号



郵便振替口座 00140-4-535550

〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方

今市の水を守る市民の会

0288-27-2183 (8時～17時:森)

0288-26-3324 (17時～21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

川むしたんけん — 行川・日光明神地区 —

2024年10月26日(土)

「川むしたんけん」では行川を活動の場所としてよく利用しています。その一番の理由は市内からそう遠くないことや、山からの栄養を含んだ水が流れてくる上流域では珍しい生きものと出会えるからです。ほどほどの流れと川幅を選ぶと川に入りやすい場所も見つかります。最初に行なったのは2002年6月8日(だいや川通信11号記載あり)。今市と小来川を結ぶ道路の下の流れでした。現在その近くに日光市千本木のクリーンセンターが建っています。この日の参加者は33名、多くの種類が見つかりました。イオン今市店から飲料の差し入れもあり、大人も子どもにもぎやかに過ごした一日でした。

今回は明神地区の行川中井橋より200メートルほど上流の場所で、NPO「なんとなくのにわ」との共同開催。子供大人総勢10名で実施しました。水深10～15cmの所を小さな網と白い皿を使って川に入るには程よい条件の日でした。環境省指定の指標生物を見つけるこの方法は生きものの種類によってその場所の水質がわかるという表もあり、簡単です。子供から大人まで一緒に行なえるのも特徴です。山間部を流れ下ってくるこの日この場所の水質は、予想通り「きれいな水」に棲む種類が見つかり、水質階級Ⅰとわかりました。

川虫(水生昆虫)が面白いのは水の中なので捕まえやすいことや幼虫と成虫の姿が異なることです。成虫は空を飛ぶので多くの人が見知っていると思いますが、幼虫は水の中で不思議な姿をしています。日光市にはたくさん川があります。この身近な川で生き物達はしっかり生きています。季節・場所を違えて水の中を覗いてみてください。小中学生のみならず、大人の方にも知っていただきたい川虫達の世界です。



河川名: 行川(日光市明神 中井橋上流・左岸)

日時: 2024年10月26日(土) 9:00AM

天気: 曇り・気温17.1℃・水温18.5℃

川幅: 10m 水面幅: 5m

川底の状態: 砂礫・10～30cmの石

見つかった生きもの

A 指標生物(環境省指定)

- 水質階級Ⅰ(きれいな水)に棲むもの
ヒラタカゲロウ類 小型3匹、ヘビトンボ 大小8匹、
カワゲラ類 3cm1匹・小型2匹、サワガニ 1匹
- 水質階級Ⅱ(ややきれいな水)
ヒゲナガカワトビケラ、タニガワカゲロウ、
ヒラタドロムシ、コオニヤンマ、カワニナ
- 水質階級Ⅲ～Ⅳ(きたない水)
見つかりませんでした。

B 指標生物以外の生きもの

- 水生昆虫 シロタニガワカゲロウ、モンカゲロウ、
カクツツドビケラ、ナベブタムシ
- トンボのヤゴ(幼虫)
オニヤンマ、ミルンヤンマ、オニヤンマ、
カワトンボ、サナエトンボ
- その他 カエル(トウキョウダルマガエル?)

以上、生きものの種類からこの場所の水質は
「きれいな水」と判定しました。(塚崎)

編集後記

今市中学校に通っていた頃、日曜日には友人のNと鬼怒川カントリーへキャディのバイトに通った。時代は真空管からトランジスタへの移行期。通信関係の廃棄部品がジャンク屋の軒先に積み上がり雨ざらしになっていた。ラジオ仲間にとってこれは宝の山である。買い集めて分解し通信機やアンプを組み立てて遊んでいた。貧乏な中学生の資金源は1日500円稼げるキャディだった。どうやら今市周辺では中学生バイトは1970年代半ばまで黙認だったらしい。朝の4時半に待ち合わせ、大谷橋から自転車を走らせ、ゴルフ場のクラブハウスで受付をして順番を待った。鬼怒川カントリーには「イン・アウト」のほかに「温泉コース」があり、スタートの1番ホールは「鶴」。鬼怒川の自然を満喫といった趣向の籠岩からの打ち下ろしだった。中州の岩の上がティーグラウンド、流れの向こう側にグリーンがあった。キャディは対岸に移動してお客さんの第1打を待つ。ヒヨドリのようにみごと芝生に軟着陸するボールもあれば、川に没するショットもある。眺めているのは楽しかった。秋の「ゆったりウォーク」のとき、その籠岩に初めて登った。コースが廃止になったのはだいぶ前らしく、周囲はすっかり木に覆われ「No1 鶴 KG122Y…」と彫り込まれた立派な石板だけがゴルフ場だったことを示していた。ふと、アルバイトの昼休みに練習用のグリーンでバターとゴルフボールを借りてNと遊んだ光景が浮かんだ。本会設立時から協力して活動した彼は他界して久しい。使われなくなったティーグラウンドに立つ私を、遠くから見ていたのだろうか。(T)